

2016 年度 前期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

授業改善アンケート調査結果

1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。2010年度後期より KOAN 上でのアンケートになったが、2014年度前期以降、再び授業内でマークシート用紙を配布・回収する方式に変更した。また今年度より、2011年に開設されたグローバル 30 人間科学コース（以下、G30）でのアンケートも開始された。実施期間は以下の通りである。

2016年度前期アンケート回答期間：2016年7月5日～8月8日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義科目である。対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳は、以下の通りである。受講登録者数に対する回収率は70.0%であった。（2015年度後期：67.8%）

2015年度後期授業改善アンケート 対象科目数・回答数

		対象 科目数	回答数
学部科目	共通科目	10	176
	行動系科目	11	243
	社会・人間系科目	15	297
	教育系科目	11	386
	G 共生系科目	10	287
大学院科目	共通科目	8	131
	その他	40	321
G30 科目		21	103
計		126	1944

回収数 1944 / 受講登録者数 2776 = 回収率 70.0%

※1 基礎科目は、行動、社会・人間、教育、G 共生系科目に割り振られている。

2 受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに2010年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

2. 授業改善アンケートの結果

2016年度前期の授業改善アンケートの回収率は70.0%と、2015年後期の67.8%から3%ほど上昇した。また、対象科目数は、あらたに実施が開始されたG30を加え126となり、これまでで最も多い科目数で実施されたことになる。今回も引き続きマークシート方式が採用され、集計方式を変更した2014年度からの回収率では、2014年前期の70.1%に次いで高い値であった。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」(1~5の範囲で数値が高いほど高評価を意味する)については、4.72であり、学生の授業への満足度は例年通り高いといえる。

満足度に関する問10以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問1の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が77.8%(2015年前期76.1%)と、昨年度よりも多くの学生が授業に参加しているが、2014年前期の87.5%と比較すると下回っている。また、これまで問題とされていた自宅学習に関する項目、問2の「この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」に対して、「ほとんどなし」と答えた割合が41.8%であった。例年この設問についてはつねに5割を越えていたが、学生の自宅での予習・復習にあてる時間が大幅に増加し、改善されたといえる(2015年前期53.7%/後期64.4%)。また、学系別集計によれば、行動系では44.0%まで減少した(2015年前期57.5%)。ただし、今回からアンケートを開始したG30の割合が7.8%と全体の平均を大きく引き下げているため、実際に改善傾向にあるかどうかについては次年度以降の経過を観察することが必要である。問4の「授業内容はよく理解できましたか？」の全体の平均値は3.78であり、ほぼ例年と同じ数値を示した。

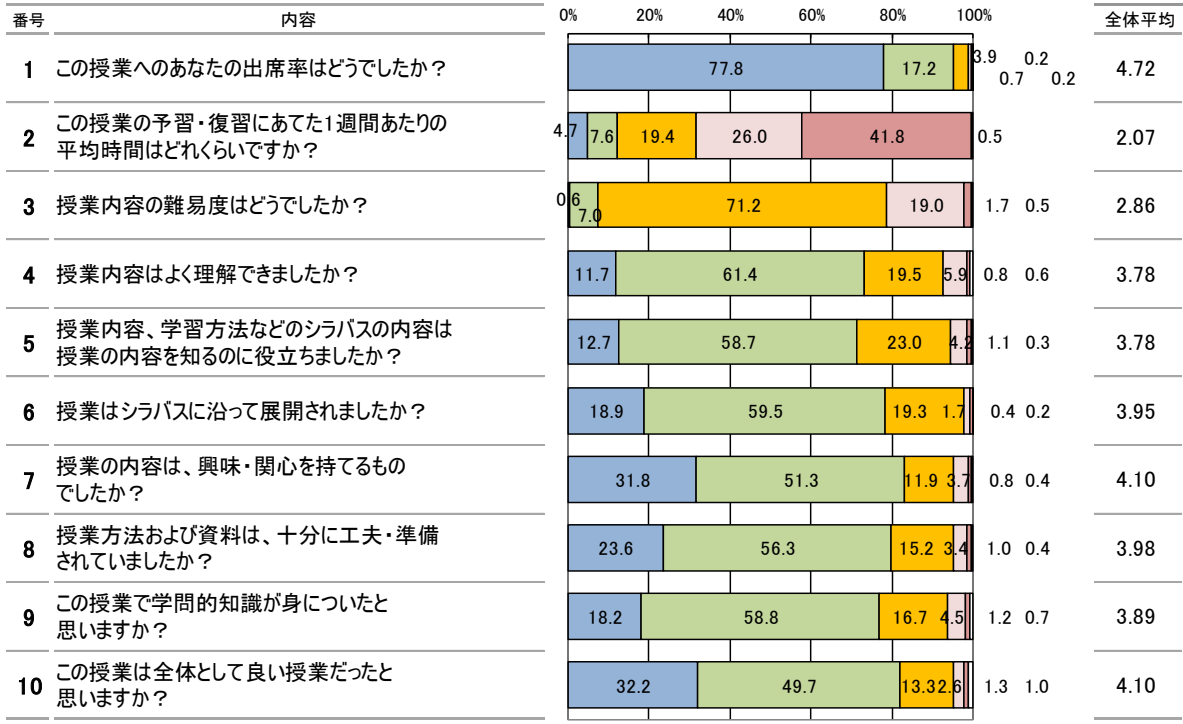
また、問3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に対しては「適切」であるとの回答が71.2%、シラバスについての問5「授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？」に対しては58.78%が「そう思う」と回答している。いずれも2013年以降徐々に改善傾向にある。問6「授業はシラバスに沿って展開されましたか？」に関しては「そう思う」の割合は59.5%(2015年前期59.9%)、問8の「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていきましたか？」は3.95(2015年前期3.81)、問9の「この授業で学問的知識が身についたと思いますか？」は3.89(2015年前期3.77)と、すべての項目について改善されており、適切な授業運営が実施されていると判断される。

以下より、2016年度前期の授業改善アンケートの結果の詳細を示す。

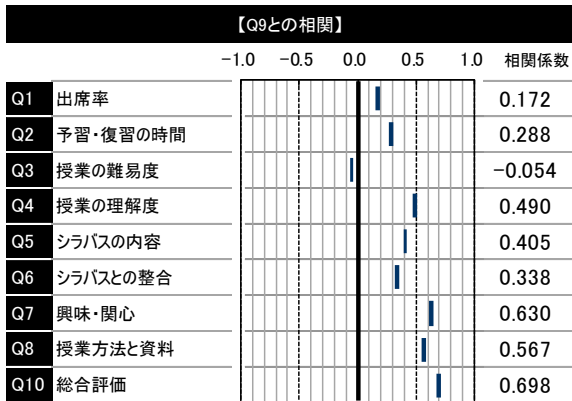
※学系別集計(p.4)については以下のように集計している。

- ・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。
- ・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。
- ・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動、社会・人間、教育、G共生科目に割り振られている。
- ・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。
- ・各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

全体集計	履修者数	2776
	回答数	1944
	回答率	70.0%

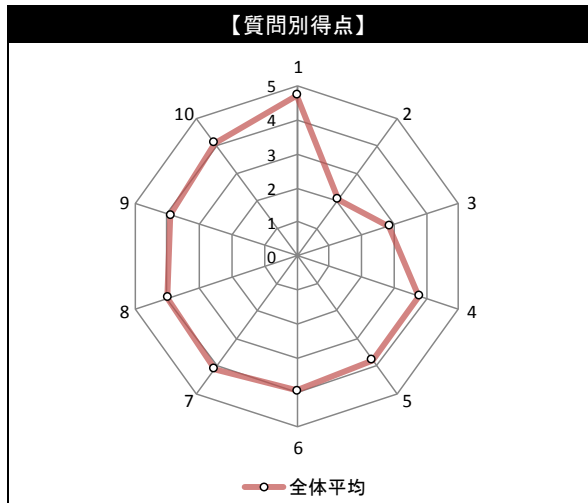
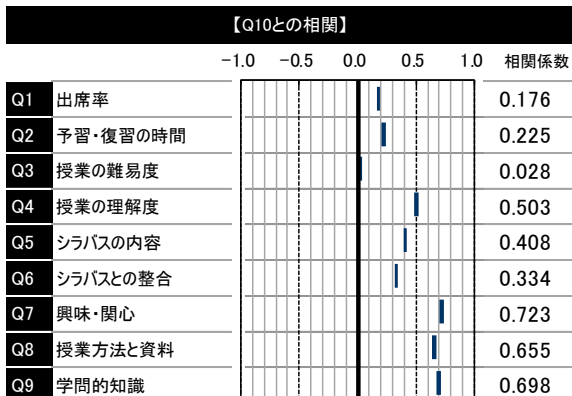


グラフ内数字は回答率(%)



回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間~3時間	30分~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4~9	強く思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	不明(無回答を含む)
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。(例: 回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど)

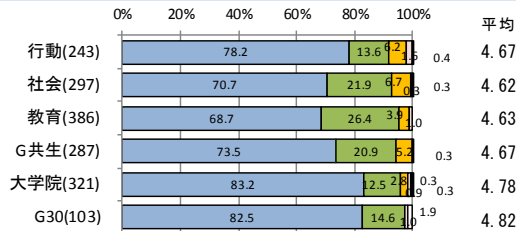


学系別集計

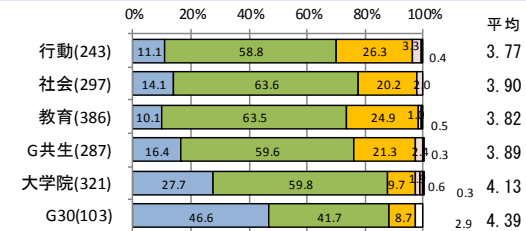
※グラフ内数字は回答率 (%)

回答凡例	5	4	3	2	1	-
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60~80%	40~60%	20~40%	20%以下	
質問2	3時間以上	1.5時間 ~3時間	30分 ~1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	不明 (無回答を含む)
質問4~9	強く そう思う	そう思う	どちらとも 言えない	そう 思わない	全くそう 思わない	
質問10	非常に 良かった	まあ 良かった	普通	あまり 良くなかった	かなり 良くなかった	

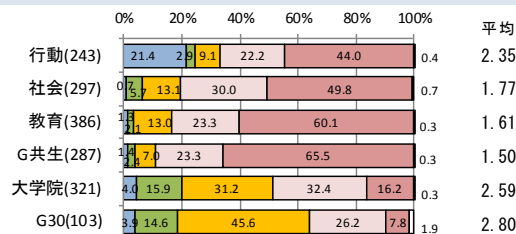
1. この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



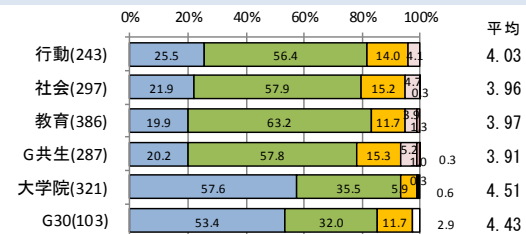
6. 授業はシラバスに沿って展開されましたか？



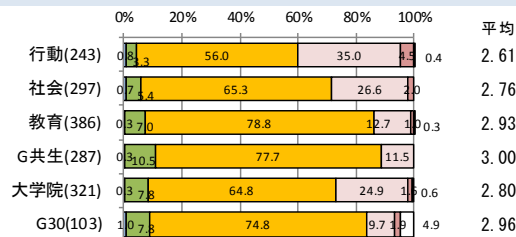
2. この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



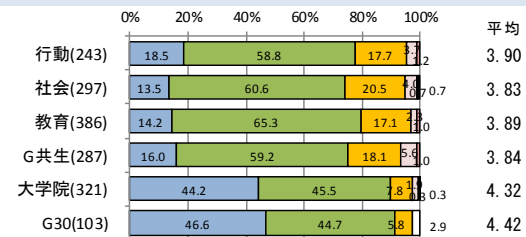
7. 授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



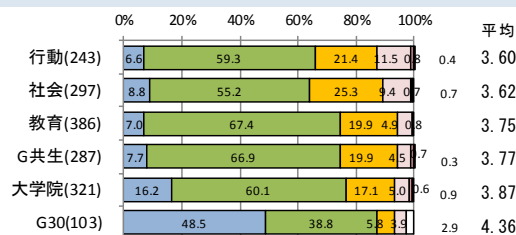
3. 授業内容の難易度はどうでしたか？



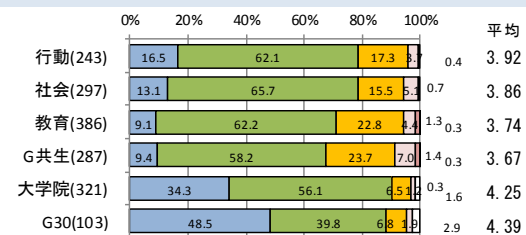
8. 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



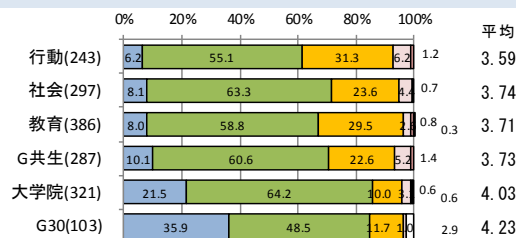
4. 授業内容はよく理解できましたか？



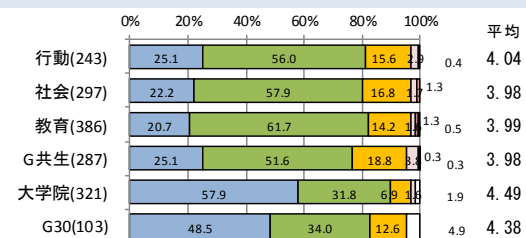
9. この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



5. 授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



10. この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



＜満足度上位の科目＞

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ）。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 126 科目のうち、回答数が 10 以上の科目は 60 科目であり、平均値 4.10 を上回ったのは 32 科目であった。

2016 年度前期講義科目
満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	グローバル化と文化	32	4.63
2	実践的文化交流 I	16	4.63
3	社会心理学	16	4.63
4	Peace and Conflict Studies I	12	4.58
5	国際フィールドワーク論 II	11	4.45
6	国際社会開発論 I	26	4.42
7	Popular Culture in Japan	15	4.40
8	学校経営学	34	4.35
9	学習生理学	13	4.31
10	動態地域論 I	13	4.31

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10 平均値
1	比較社会学特講	10	5.00
2	共生社会論特講 III	11	4.82
3	比較福祉論特講 II	27	4.78
4	コンフリクトと共生特講 I	16	4.75
5	臨床死生学・老年行動学特講 I	15	4.73
6	環境行動学特講 III	16	4.69
7	比較文明学特講	11	4.64
8	日本教育史特講	12	4.58
9	社会保障政策論特講 I	11	4.55
10	文化社会学特講	14	4.50

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

篠原 一光	人間科学学際研究特講
<p>教員コメント ⇒今年度より新たに開講した科目であり内容もこれまでにないものだった。「安全・安心」について様々な話題に触れることができた、グループワークで他の専門の大学院生と交流できたという評価がある一方で、内容的に不満を感じる受講生も多かった。人間科学研究科のポリシーに基づく重要な内容を扱う科目ではあるが、多様な受講生が関心を持てる内容を設定するのが難しい科目だということを実感した。来年度の実施に向けて、内容、授業の実施方法等様々な改善が必要だと認識している。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒新開講科目のため該当なし。</p>	
中村 安秀	多文化医療通訳概論
<p>教員コメント ⇒昨年に引き続き、人間科学研究科だけでなく、保健学科、言語文化研究科など、他の学部からも参加いただき、ありがとうございました。グループディスカッションや論文発表なども有意義と考えていただき、ありがとうございました。 現場の医療通訳士からもっと聞けるといいという意見がありましたが、現場の医療通訳士の方々には、医学部における後期「医療通訳実践論」の講義で取り扱うことになっています。そちらも受講してもらえるとうれしいです。 統計データの使い方だけでなく、自分で統計データを調べられるような講義をしてほしいという要望がありましたが、人間科学研究科の社会学などの講義で、じっくりと勉強してください。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒ワークショップの回数を増やした。また、昨年に引き続き、レポート発表を冊子型にまとめて、活用しやすいように工夫した。</p>	
白川 千尋	コンフリクトの人文科学特講Ⅰ・コンフリクトの人文科学特別講義Ⅰ
<p>教員コメント ⇒全体平均とほぼ変わらない結果だったが、「コンフリクトの人文科学特別講義Ⅰ」の方に関して、予習・復習にあてた時間が全体平均よりも少ない結果が出たため、授業中に受講生に対して授業内容の理解度を問う機会を増やすなどして、受講生が予習・復習により積極的に取り組むような工夫を行いたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒この授業は今年度初めて担当したため、とくになし。</p>	
Don Bysouth	人間科学特殊講義Ⅰ(Qualitative Research Methods)
<p>教員コメント ⇒Thank you for the favorable evaluations! It was pleasing to see that the changes to assessment (i.e., the assessment tasks have been reduced over the last few years due to student feedback) have been well received.</p>	

昨年度からの改善点
 ⇒I will continue to introduce new topics and methodological reviews based on student needs and previous experiences. The past few years students have wanted the focus to be on analyses of interview data, but recently there has been a desire for 1) more focus on interactional analyses, and 2) more examinations of textual materials (i.e., utilizing forms of discourse analysis).

安元 佐織	人間科学特殊講義 III
<p>教員コメント ⇒本年度から開講された講義でしたが、トピックに興味を持って受講してくれた学生さんが真剣に高齢社会に纏わる様々な課題について議論してくれました。分野が異なる学生さんが受講してくれたこともあり、受講生が互いに学び合うことができる授業だったように思いました。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒</p>	

中道 正之	人間科学概論
<p>教員コメント ⇒今年度から人間科学部 1 年生を対象として開講された必修科目であり、世話役の私(中道)、さらに、各学科目からの教員を含め、6 人でシラバスを作成し、授業に臨んだ。新入生に人間科学とは何か、人間科学をどのように学ぶのかなどを教示しながら、人間科学の学際性を実感してもらうことを目的とし、[living-together]をキーワードとする授業内容を作成し、授業中のグループ討議、人間科学研究科の大学院生との対談、人間科学研究科の教員に執筆してもらった読んでほしい本の冊子「私の 1 冊」の配布と読書後の討論、さらには、研究倫理に関する議論なども行った。学生からの評価は、従来の類似科目よりは高い評価で、全体平均よりも高かったことで、初期の最低限の目標は達成できたと考えている。 しかし、例えば、グループ討議の課題がやや具体性に欠ける場合や、レポート執筆にはより具体的な指示をすべきであった、などの反省点も多々確認している。次年度に向けて、教員間での振り返りと同時に、今年度の受講生のコメントも大いに参考にして、改善を目指したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

権藤 恭之	心理学実験
<p>教員コメント ⇒本科目は、心理学実験に関わる 5 つの課題に対してそれぞれのレポートの提出を義務としている。これまで、レポートの提出を負担と感じている学生の声を多く聞いてきたので、近年は授業内容を平易なものにする方向で改善してきた。提出されたレポートは、担当の教員および TA により丁寧に添削をしており、指導に従って修正すれば、最低限の体裁は整える合格点に達することが可能であるように組み立てている。 しかし、アンケート結果を見ると内容が平易だと感じている学生が多いことがわかったので、来年度からは、レポート執筆において、定型で対処できる部分を減らし、より受講者が考えなければならないように変更していく必要があると考える。 また、実験に際しても、これまで一部の受講者は課題内容に創造力を発揮するものもいたが、今後はすべての受講者が創造性を発揮できるような内容に変更する方向で調整する。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒班別に行っている実験の内容を、基本的な枠組みから外れなければ独自にアレンジをして実施することを可能とした。</p>	

山中 浩司	社会環境学概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒オムニバス形式の授業で例年授業評価については他の単独の講師が行う授業と比較して印象が散漫であることは否めませんが、今年度は、担当教員の実験分野を限定したため、多少扱う問題を絞れたかと思えます。</p> <p>全体に、昨年度よりいずれの項目についてもアンケート結果はかなり改善しており、内容をある程度限定することが学生の理解にとっても良好な結果をもたらすことがわかりました。ポートフォリオシートの記載も熱心な受講生が多く、一定の成果はあったと考えます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒担当教員の実験分野をある程度昨年度より限定しました。学生とのコミュニケーションを増やすように担当教員に意識してもらいました。</p>	

佐々木 淳	臨床教育学概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒アンケートから、興味・関心をもてた人ほど学問的知識が身についたと感じたり、授業に満足できているということが読み取れました。ただ、9割以上の学生さんは難易度が適切であると感じているものの、予習・復習に使った時間において、課題が見られたようです。来年度から別の授業に再編されますが、課題を教員間で共有しておこうと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年度と同様、同じ研究分野からの講義をなるべく連続で聴けるように配慮した。</p>	

河森 正人	地域研究概論
<p>教員コメント</p> <p>⇒TAの役割を明確にしたほうがよいとの要望があったので、今後改善したい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒オムニバスの形態はわかりませんが、あらたな教員に加わってもらい、内容を新しくしました。</p>	

中道 正之	霊長類心理学・比較行動学特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業の満足度に関する項目の評価が、昨年度より若干低下しましたが、全体平均よりは高い値であったことで、安堵しています。授業中に、学生からの意見を積極的に聞くように、質問項目をいろいろと準備して臨んだが、授業が進むにしたがって、意見を述べる人が限定されてきた気がする。受講生が広く、積極的に参加できる雰囲気作りが必要と感じています。授業中に、学生同士での意見交換についても、同様の傾向が見られました。授業回数が進むにつれて、意見交換しない人も出てきましたので、この点に対応できる工夫の必要性を感じています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年度同様に、双方向授業を加速するために、質問事項などを準備するようにして授業に臨んだ。</p>	

足立 浩平	推測統計科学
<p>教員コメント ⇒教科書の難易度を下げたにも関わらず、その内容はやや難しかったと判断され、できるだけ平易に解説できるように努めた。しかし、受講者には細部で理解不可能な部分が残ったと考えられ、そうした理解不可能な部分は、気にしなくて良いと考えられる。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒教科書を難易度がより低く、かつ、人間科学部の研究で使える主題に限定したものに代えた。</p>	

中野 良彦	行動形態学・生物人類学特講 I
<p>教員コメント ⇒講義形式であり、受講者に理解しやすい内容とするようにしたので、授業の難易度は低くなったと思う。その分、内容の理解度や知識の習得に関しては高めの回答になったのではないだろうか。 自由記述で、進行が早いとの意見があったが、シラバス通りの進行を考えるとそうなってしまった感がある。今後は、シラバスの内容をふまえて、ある程度、柔軟に進行具合を考えていきたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒授業を理解しやすくするため、一部を一般的な内容に変更した。</p>	

日野林 俊彦	比較発達心理学
<p>教員コメント ⇒自分の研究を平易に紹介しようと考えたが、テーマが偏りすぎて受講者の理解に到達できなかったのかと反省しています。パワーポイントの内容を配布する頻度も足りなかったと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒パワーポイントの内容を配付するようにした。</p>	

入戸野 宏	認知心理生理学・基礎心理学特講 I
<p>教員コメント ⇒初めて開講する授業であり、やや高度な内容を設定した。そのため高学年者の評価が高く、低学年者の評価が低いという結果になった。学部生は、授業内容を全体平均よりも易しいと評価する一方で、理解度は全体平均よりも低かった。これは授業そのものは平易に実施されていたが、学習者の基礎知識が足りないため、十分に理解できた感覚が持てなかったからだと思われる。そのため、次年度は課外学習を取り入れることにより、基礎知識を向上させたいと考えている。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒今年度から開講した。</p>	

八十島 安伸	学習生理学・行動生理学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒本講義は、さまざまな行動に伴っている学習についての神経メカニズムを紹介しました。受講生から「学問的知識を身についた」という点では概ね高評価であったので、今後も受講生の頭脳を刺激できるような授業にしていきたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒今年度は昨年度の「行動生理学」から取り入れたレポートと毎回の問題作成を課しました。問題作成から、教員の立場ではない受講生視点からの疑問を講義でも取り上げることができ、それが補完的に働いたと思います。今後も当然これらの活動を続けていきます。</p>	

佐藤 眞一	高齢者行動論・臨床死生学・老年行動学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒2名の教員によるオムニバス授業であった。教員は互いに内容が重ならないように打ち合わせてから授業を行ったが、一部の授業内容が他の授業と重複する部分があるとの指摘があったので、教員間で検討して改善したい。理解度、難易度等は概ね問題が無いようだったが、パワーポイントファイルの多さ、展開スピードの速さによって、理解が追いつかないとの回答もあったので、この点も教員間で検討して、パワーポイントの資料を配付するなどの対応を取りたい。本年度も学生の予習・復習の時間が少なかったので、コメントペーパーへの記入を行い、次の授業でそれに対するコメントをすることによって、復習を促した。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒コメントペーパーへの教員からのコメントを次の授業で実施し、学生の意見を発表させるなどの工夫をした。また、最新の参考書を紹介した。</p>	

Robert Scott North	比較社会学・比較社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒I am grateful to all the students who took this class in 2016. They were generally engaged with the readings and they brought their thoughts and ideas to the classroom discussions. It was a tough semester for me and their participation in the course brightened my days.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒Students did not suggest many improvements so I will probably carry on as before. However, I need to keep the course interesting for me and so the themes will likely reflect my current research interests. In that sense, the content is likely to shift a bit.</p>	

村上 靖彦	哲学的人間学・哲学的人間学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒内容そのものについては概ね良い評価を頂いたと思いますが、自宅学習への配慮が不足しているのが反省点です。今後、対応を考えます。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p> <p>方法論の解説に時間をさきました。</p>	

中山 康雄	言語・情報論・言語・情報論特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒今年度は、質問紙を授業の終わりに提出してもらい、これを評価の一部に組み込んだため、出席率の向上が見られた。また、授業の中でこれらの質問に答えたため、双方向のコミュニケーションに関する向上が見られたと感じている。ただし、授業評価の面では残念ながら高い評価は得られなかった。今後も改善点を探っていきたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒今年度は、質問紙を授業の終わりに提出してもらい、これを評価の一部に組み込んだ。また、授業の中でこれらの質問に答え、双方向のコミュニケーションに関する向上を目指した。</p>	

遠藤 知子	比較福祉論 II・比較福祉論特講 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒今年度は講義形式の授業で履修者が社会政策のテーマの争点と福祉国家をめぐる問題について複眼的に理解できるようになることを目指しました。福祉国家の概念や政策の考え方に関する抽象的な議論が多かったため、来年度は具体例をさらに取り入れて履修者の理解を向上させる工夫をしたいと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒講義内容を補強するためにデータや参考資料を充実させた。</p>	

山中 浩司	文化社会学・文化社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒アンケート結果については概ね例年通りでした。後半の内容がやや難しいため、できるだけ受講生とのコミュニケーションをとりながら進めるようにした結果、学部生の難易度についての回答は改善したように思う。授業外での学習時間をどのように高めるかについては今後の課題としたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒後半部分の内容を学部生にもわかりやすく興味を持ちやすいように授業中の受講生とのコミュニケーションを多くとるようにした。</p>	

川端 亮	計量社会学・計量社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒この授業は、予習・復習が多く必要とされる授業なので、最後まで受講した学生があまり多くなかったことは残念であるが、学問的知識が身につく、満足度もまずまずなので、よかったのではないと思う。授業内容の難易度は、「やや易しい」と答える人が半分近くおり、授業内容はよく理解できたかに対して「そう思う」と答えた人も半数いるが、教えた内容は決して易しいものではなかったので、これ以上難しくしてよいかどうか、迷うところである。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒前回（平成26年度）からの改善点は、TAを用いて、毎回の宿題をチェックし、添削、コメントを付けて返すようにしたことであるが、TAとのコミュニケーション不足な点もあり、今後、TAの使い方を改善する必要があると感じた。</p>	

鈴木 広和	文明動態学・文明動態学特講
<p>教員コメント ⇒ひき続き、よりよい授業を目指していきます。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

白川 千尋	グローバル化と文化
<p>教員コメント ⇒予習・復習にあてた時間が全体平均よりも少なかったため、授業中に受講生に対して授業内容の理解度を問う機会を増やすなどして、受講生が予習・復習により積極的に取り組むような工夫を行いたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒この授業は今年度初めて担当したため、とくになし。</p>	

志水 宏吉	学校社会学
<p>教員コメント ⇒授業のスタイルを以下のように大きく変更したが、受講生からの評価はおおむね妥当なものであった。主体的な活動を期待するがゆえに、コミットメントの高い履修生とそうではない学生とのコントラストが例年以上に大きいように思われた。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒授業のスタイルを、講義形式からグループ発表形式へと大きく変えた。</p>	

志水 宏吉	教育文化学特講
<p>教員コメント ⇒授業のスタイルを以下のように大きく変更した。そのせいか、受講生からの評価はかなり向上した。手ごたえのある学生たちからの反応を引き出すことができ、満足している。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒授業のスタイルを、講義形式からグループ発表形式へと大きく変えた。</p>	

小野田 正利	学校経営学・学校経営学特講
<p>教員コメント ⇒授業内容は、単に教育学の問題にとどまらず、社会全体の構造的問題を扱っていること、同時に私も定年まで残すところ、あとわずかなので、今年から学部学生用にも提供する形で、この講義を実施した。学部生の履修者は、同一学年の約半数なので、かなりの関心をもってくれたと思う。 評価であるが、授業者にとっていちばん気になるのが番号7、8、9、10であるが、いずれも全体平均を上回っていたので、いいように思う。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒受講者が増えた分、ワークショップはやりやすかったが、逆に進行状況の把握が難しくなったので、それをどう工夫するかが課題かなと思う。資料やデータも、できるだけ新しいものに取り替えた。</p>	

井村 修	臨床心理学 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒授業評価としては平均的な水準にあると認識しました。予習をしている人としていない人で、授業の理解度に差があると思われます。特に、質問内容に表れているようです。受講生のプレゼンテーションのさせ方にも工夫すべき点があると感じました。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年はTFの試行をしましたが、今年はSTAに戻りました。しかしTF同様に受講生の質問に答えてくれました。STAが授業に加わることにより、受講生、STA、教員の質疑応答が深まるように感じました。</p>	

中澤 渉	教育社会学・教育社会学特講
<p>教員コメント</p> <p>⇒内容は精選したつもりだったが、リアクション・ペーパーに割く時間を十分に取れず、結果として内容を詰め込み過ぎという印象を与えてしまったようだ。来年は、自分で学習できそうなところは文献紹介などにとどめ、個人では理解が難しそうなところに重点を絞って講義して、リアクション・ペーパーなどを通じ（最低でも15分程度の時間を取る）、もう少し学生との相互作用ができないか、工夫してみたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒授業に向けての学習を促すため、リアクション・ペーパーや持ち帰り課題を増やし、それに対するコメントも授業で触れるようにした。</p>	

藤川 信夫	教育人間学 I・教育人間学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒大学院生には少し内容が簡単すぎたのかもしれない。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒シラバスとの対応については、ある程度改善できているのではないかと思います。</p>	

木村 涼子	ジェンダーと教育・ジェンダーと教育特講 (A)
<p>教員コメント</p> <p>⇒昨年に引き続き、教員と受講生、また受講生相互の交流をよりはかるために、ポートフォリオを活用して、感想・質疑応答をおこないました。受講生によるテーマ発表の時間も組み込んだ形式をとり、発表者にとっても、聞き手に回った学生にとっても、アクティブラーニングの機会となったと思います。反省点としては、映像視聴を行う際にうまく機器が作動しなかったり、受講生の皆さんに迷惑をかけた点、一回分のレジメの分量が多すぎて一部次回まわしとなったことがあった点などです。準備をより入念にしなければならないと考えています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年よりも拡大版のポートフォリオシートを用いて、受講生のプレゼンテーションの範囲を広げましたが、ほとんどの受講生が拡大した枠を十二分に活用してくれました。最後にはご本人に返却し、学習の記録となるようにしたことはよかったのではないかと考えています。</p>	

藤岡 淳子	人格心理学特講
<p>教員コメント ⇒授業内容が「やや易しい」が半数を占めていた。みなさん優秀ですね。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒特になし。</p>	

野坂 祐子	教育心理学 II
<p>教員コメント ⇒出席率も高く、多くの学生が興味をもって受講していてよかったです。 授業ではできるだけグループワークを行い、受講者同士の意見交換の機会を設けるようにしました。お互いの意見から学べたことも多かったと思います。今年度は、映像やDVDなどの視覚教材も用いたところ、資料に関して好評価が得られたので、引き続き活用したいと思っています。 予習や復習はぜひ自主的にやってほしいところですが、こちらからも課題を提示するなどして自己学習に取り組みやすいように改善していきます。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒教材に映像やDVDなど用いて、より学習が深まるよう工夫しました。理解度が高まったようでよかったです。</p>	

栗本 英世・山田 一憲	コンフリクトと共生特講 I
<p>教員コメント ⇒この授業は、2名の教員が半年間一緒に講義をする、一方の教員が毎回1冊の本をレビューし、他方の教員がそれにコメントする、授業の最後は参加者全員で議論するという形式で進めました。取り上げた本は、生物学の理論、霊長類学、人類学など履修者の専門とは異なっており、教員にとってもチャレンジングな授業でしたが、授業評価アンケートの得点は高く、自由記述では授業内容と授業形式がポジティブに評価されていました。ある日の授業の中で、科学における「正しい」データの取り扱いについて、履修者と議論になり、私が必死になったことを強く覚えています。この授業では、教員同士がしっかり議論することも目指しています（栗本先生は「格闘技のような授業を目指す」とおっしゃっていました）。これからも履修者と教員が必死に議論できるような機会を少しでも増やしていきたいと考えています（文責・山田）。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

河森 正人	動態地域論 II
<p>教員コメント ⇒予習復習をすることがあまりなかったとのコメントがあった。今後この点について改善するようにしたい。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒遠隔授業によって外国語学部の学生も聴講できるようにしました。</p>	

福岡 まどか	地域知識論 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒地域知識論 I の授業では、東南アジアの文化を通して異文化に対する関心を深めて、グローバル化する現代世界における地域固有の知のあり方を探求することを目指しています。今年度は、映像資料の充実を行い、また東南アジアだけでなく日本の事例も取り入れました。</p> <p>回答の中では、授業に対する興味・関心の点でまだ課題が残っていると感じました。海外の事例から、私たちを取り巻く身近な問題を考えることができるように授業の展開方法を工夫する必要があると思います。また受講人数が増えてしまった関係で教室を変更したため、コンピューターから映像・音声が出せませんでした。映像資料の充実をはかったものの、その点は残念だったと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒今年度の授業では、全体的な授業の展開の構成を考え直して、できるだけ受講生の皆さんが関心を持ちやすいモノ作りのプロセスや日本の文化に関する事例などを取り上げるようにしました。また映像資料も充実させました。</p>	

中村 安秀	国際協力学 I・国際協力学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒全体として、外国人の学生の割合が高く、質の高い授業を行うことができた。日本人の学生も、ことしは英語力の高い学生が多く、活発な議論を楽しみながら、講義をすることができた。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒ことしは、早くにレポート発表のテーマを、「持続可能な開発目標 (SDG)」に定めた、学生諸君の、熱のこもったプレゼンテーションは、非常に有意義であった。</p>	

藤川 信夫	共生の人間学特講 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒大学院生には少し内容が簡単すぎたのかもしれない。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒昨年度は未開講</p>	

鈴木 広和	動態地域論 I
<p>教員コメント</p> <p>⇒ひき続き、よりよい授業を目指していきます。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒レポート課題を、より講義との関連性がはっきりしたものに変更しました。</p>	

岡田 千あき	国際社会開発論 I
<p>教員コメント ⇒授業に対するコメントをありがとうございました。多くの皆さんが意欲的に取り組んでくれましたので、いい授業ができたと思っています。外部講師の講演や映像資料の活用などが好評で、授業を通じて伝えたいことは伝わったのではないかと喜んでます。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒外部講師の講演が好評であったため、回数を増やしました。また、人間科学研究科の卒業生に講師をお願いするなど、皆さんにより近い距離で話ができるように工夫しました。</p>	

稲場 圭信	共生社会論特講 III
<p>教員コメント ⇒おおむねアンケート結果の通りの講義だったと思います。 学問的知識が身についた 4.71、全体として良い授業 4.86 だったので 共生学系の初年度の講義としては、よかったと思います。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒</p>	

中村 安秀	国際健康開発論特講
<p>教員コメント ⇒人間科学研究科および保健学科の院生と医学部4回生の交流のなかでの授業を、学際的な雰囲気楽しんでもらいました。医学部の学生はザンビアへのスタディ・ツアーがあるため、自分たちで調べたザンビアの話を発表し、NGOやJICA経験者から、直接にザンビアの状況を講義していただいた。</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒学生の関心に添って、フレキシブルに授業を内容を変更できた。その意味では、ザンビアへのスタディ・ツアーという具体的な目標に向かって準備に余念がない学生には、有意義だったと考えられる。 ただ、「授業はシラバスに沿って展開したか」という点では、低い評価であったが、当然の結果であると自負している。</p>	

渥美 公秀	Disaster Prevention and International Cooperation
<p>教員コメント ⇒受講生は多くはないが、一人一人が極めて積極的に参加し、学び、考え、意見を述べてくれるので、スムーズに授業を進めることができた。ある程度、事例が積み重ねられ、また、理論的な定説も出ている分野については、それらを提示し、考えてもらって議論することができたが、現在進行中のこと(例えば、長期的な復興過程)については、事例の紹介と説明の可能性を示すに留まった。それだけ自由に議論ができたという印象もあるが、同時に、標準的な知識(それが無いことを学ぶことが大切ではあるはずなのだが・・・)が学べなかったという印象をもった学生がいたかもしれない。</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒ 事例について、より実感をもって学んでもらえればと思っていたところ、期せずして熊本地震の発生を承け、その現場からの報告を毎行行った。受講生も様々なメディアを通じて関心を持っていたので、実感を伴った授業になった。</p>	

Robert Scott North	Comparative Theories of Society and Culture
<p>教員コメント</p> <p>⇒I am grateful to all the students who took this class in 2016. They were generally engaged with the readings and they brought their thoughts and ideas to the classroom discussions. It was a tough semester for me and their participation in the course brightened my days.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒Students did not suggest many improvements so I will probably carry on as before. However, I need to keep the course interesting for me and so the themes will likely reflect my current research interests. In that sense, the content is likely to shift a bit.</p>	

CAVALIERE Paola	Special Topic in Human Sciences IIA(Women and Religion in Contemporary Japan)
<p>教員コメント</p> <p>⇒I designed the course in a seminar-style, with students contributing with presentations and reading reviews. I enjoy teaching this topic since it is my specialty and I think students also enjoyed the content at discussion.</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

安元 佐織	Sociology of Knowledge
<p>教員コメント</p> <p>⇒抽象的な概念についての講義が中心のチャレンジングな授業だったと思いますが、受講生の学生さんは難しい課題にも真剣に取り組んでくれて、意義のあるディスカッションが持てる授業でした。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒英語が苦手な学生さんも受講してくれるので、映像や画像を増やすことによって、視覚的に抽象的概念の理解が高まるような工夫をしています。</p>	

中村 安秀	International Development and Collaboration I
<p>教員コメント</p> <p>⇒Thank you very much for your evaluation.</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒I asked students to make reports on SDGs much earlier than last year. The presentations by the students were very attractive, because they have a much more time to prepare the presentations</p>	

Viktoriya KIM	Special Topic in Human Sciences IA(Sociology of Migration)
<p>教員コメント ⇒I appreciate that you were actively participating in discussions, expressing your opinions in class and after it. The course also included many written assignments and individual research, and it was great that you did your best doing those.</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒</p>	

CAVALIERE Paola	Social Stratification in Japanese Society
<p>教員コメント ⇒ I enjoyed teaching this class and students were participating actively in discussion and with presentations.</p>	
<p>昨年度からの改善点⇒</p>	

Don Bysouth	Popular Culture in Japan
<p>教員コメント ⇒It was very pleasing that students evaluated the course favorably. As the course was a new course I will continue to explore ways in which to 1) utilize novel teaching methods, and 2) select interesting topics and materials to cover. In addition, the response to the form of assessment (i. e., students select the assessment they will undertake) was very positive, so this will continue for future course delivery.</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒This year was the first time the course was taught by me - so no information on changes!</p>	

Viktoriya KIM	Seminar in Studies of Multicultural Societies
<p>教員コメント ⇒I appreciate that you were actively participating in discussions, expressing your opinions in class. The course also included many written assignments and presentations, and it was great that you could complete all of those.</p>	
<p>昨年度からの改善点 ⇒</p>	

中村 安秀	医療通訳論 I+医療通訳論 II
<p>教員コメント</p> <p>⇒医療通訳論 I・II ともに、非常に高い評価をいただき、ありがとうございました。米国医療通訳士協会（I M I A）の講師の先生方も、この集中講義のために、わざわざ来日してくれています。</p>	
<p>昨年度からの改善点</p> <p>⇒医療通訳論 II は、多くの参加者（全員が中国人留学生）が受講した。医療通訳論 I は登録した学生の半分以下しか受講しなかった。キャンセルした学生は日本人が多く、夏休み中で大阪を離れていた学生が多かったことも要因として挙げられた。</p>	